

活文 メールゲートウェイ
宛先確認ツール for Outlook®ご紹介資料

株式会社 日立ソリューションズ

メール誤送信について

メール誤送信をしてしまった結果が及ぼす情報漏洩や顧客満足度低下は、企業の信用問題にもなりかねません。

メール誤送信の種類：

- 宛先誤りやBCC,CC設定誤り
- 不要な添付ファイルを送付
- 添付ファイル付け忘れ
- 転送ミス
- 不適切な内容
- 書きかけの状態で作成ミス送信
- 宛先/敬称漏れ

メール誤送信対策案

SMTPリレー先での改善

SMTPリレー側でメール送信までに一定期間を設け、送信キャンセルできる仕組みの導入

ソフトウェア側での改善

- ☆メールサーバ標準機能利用
- ☆Outlookツールを利用

⇒本資料ではOutlook側で動作するツールをご紹介します

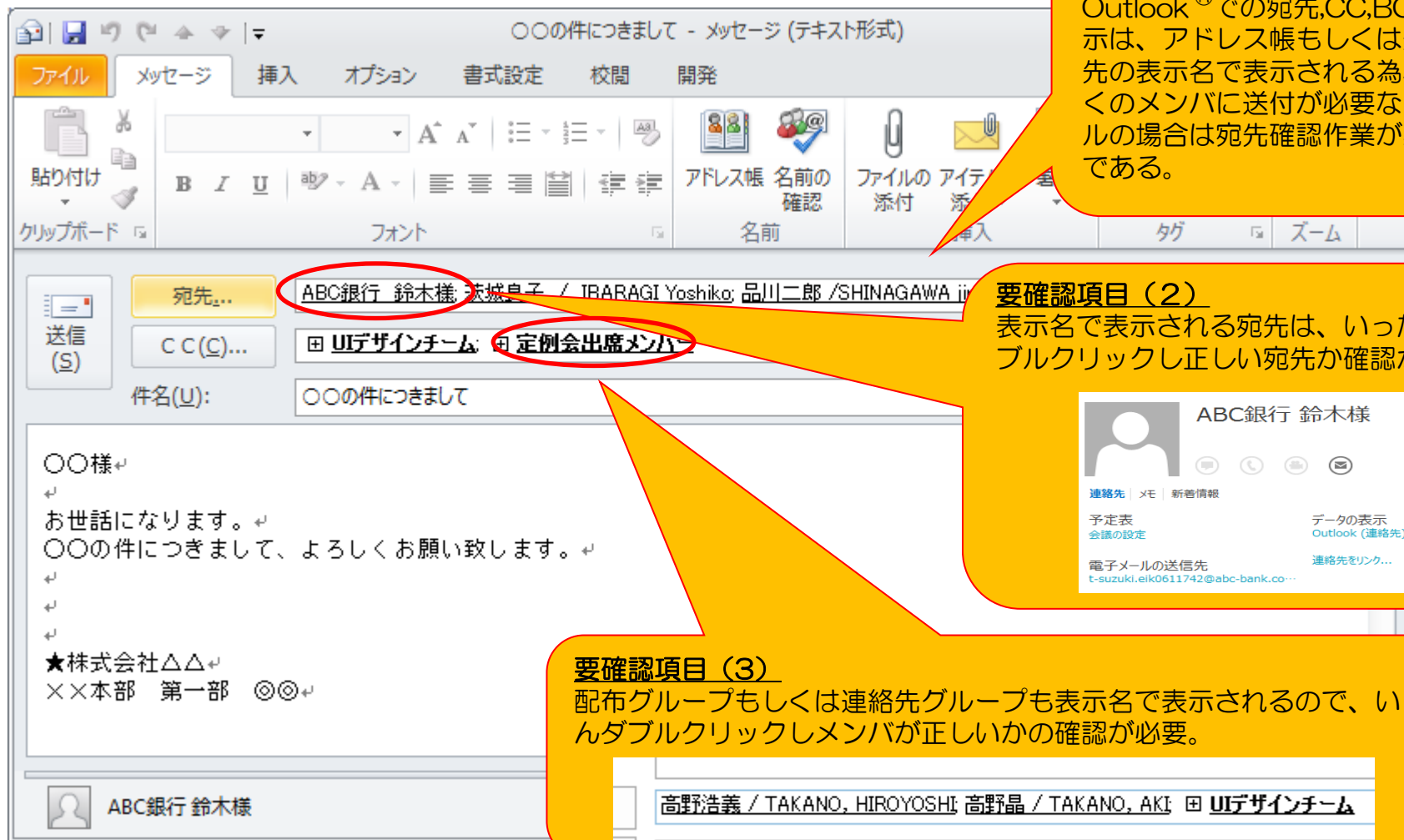
メール利用者の
うっかりミスが
多い！



しまった！

メール誤送信について

メール送信時に誤送信を行わないようにする為にキチンと宛先確認を実施した場合、メール送信作業に多くの時間がかかり、確認コストがかかってしまいます。

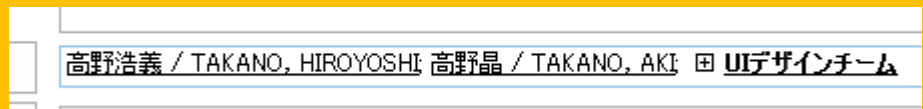


要確認項目 (1)
Outlook®での宛先,CC,BCC表示は、アドレス帳もしくは連絡先の表示名で表示される為、多くのメンバに送付が必要なメールの場合は宛先確認作業が必須である。

要確認項目 (2)
表示名で表示される宛先は、いったんダブルクリックし正しい宛先か確認が必要。



要確認項目 (3)
配布グループもしくは連絡先グループも表示名で表示されるので、いったんダブルクリックしメンバーが正しいかの確認が必要。



宛先確認ツール for Outlook® 仕様（1/3）

「宛先確認ツール for Outlook®」はメールの宛先ごとに注意レベルを判定します。判定は以下のルールで行い、初期設定作業としてあらかじめ判定に使用するメールアドレスのドメイン名をaddress.xmlファイルに設定します。

レベル	宛先	詳細
Level 1	宛先が社内アドレス	メール宛先アドレスのドメイン部分 (@以降)があらかじめレベル設計にてLevel1と決定した文字列と一致するかどうか判定し一致する場合、社内アドレスと判定。
Level 2	宛先がグループ会社アドレス、 Global Address List(GAL)に存在するアドレス	メール宛先アドレスのドメイン部分 (@以降)があらかじめレベル設計にてLevel2と決定した文字列と一致するかどうか判定し一致する場合、グループ会社アドレスと判定。 ※MAPI版：メール宛先がExchangeグローバルアドレスリスト（GAL）に存在するメールアドレスかどうか判定を行い、グループ会社アドレスと判定します。 ※LDAP版：メール宛先がLDAPに存在するメールアドレスでも、グループ会社アドレスと判定しません。
Level 3	上記以外	上記以外のアドレスを社外アドレスと判定。 退職者などLevel1で分類されても、GALに存在しないアドレスも社外アドレスと判定。

<備考>

- Level1およびLevel2に指定したドメインのサブドメインも同じ判定レベルになります。
- 宛先が「メーリングリスト（サーバ側で複数の送信先に送られる宛先）」の場合、メーリングリストアドレスについて判定を行います。
- メーリングリスト内部の個々のアドレスについて判定は行いません。

宛先確認ツール for Outlook® 仕様 (2/3)

「宛先確認ツール for Outlook®」の画面仕様を以下に示します。



(a) レベル別の宛先件数表示

宛先確認ツールが稼動するクライアントのaddress.xmlファイル内に、Level 1, 2, 3それぞれのドメイン情報を定義し記載します。

(B) 宛先リスト表示

宛先の情報（会社、役職、氏名、メールアドレス、部署）をGAL、Outlookアドレス帳、LDAPより参照します。

(C) 添付ファイルリスト表示

添付ファイルリストは、利用者が作成したメールの添付ファイルから取得します。

#	概要	詳細
(a)	レベル別の宛先件数表示	宛先を3段階の注意レベルに分類し、それぞれの件数を表示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・メーリングリストと連絡先グループは包含する数にかかわらず1件とカウントする。 ・Level 3 に複数のドメインが含まれる場合はドメイン数が表示される。 ・Level 1, 2にはドメイン数は表示されない。
(b)	宛先リスト表示	<ul style="list-style-type: none"> ・宛先の情報（会社、役職、氏名、メールアドレス、所属）が表示される。 ・情報はGAL、ローカル連絡先もしくは、LDAPの情報を使用する。 ・初期表示では、注意レベルが高いグループごとに並び替えられる。 ・ヘッダー部をクリックすると文字順にソートすることが出来る。 ・Levelにかかわらず、Outlookのローカル連絡先、Outlookキャッシュに未登録の宛先には、注意喚起のために行の先頭に黄色い三角形の注意アイコンが表示される。
(c)	添付ファイルリスト表示	<ul style="list-style-type: none"> ・添付ファイルがある場合は、ファイル名が一覧表示される。
(d)	送信、キャンセルボタン	<ul style="list-style-type: none"> ・「送信」ボタンを押下するとメールを送信する。 ・「キャンセル」ボタンを押下すとメール作成画面に戻る。 ・いずれのボタンを押下しても、本ダイアログは閉じられる。 ・ダイアログの表示中はWindows全体で全面表示となる。

宛先確認ツール for Outlook® 仕様 (3/3)

(その他)

- 宛先、添付ファイルの件数が多い場合、スクロールバーでスライドします。
- 宛先の確認時間はOutlook®とExchangeサーバ/LDAPサーバの通信、処理速度に依存します。
- PC起動後のアドインの読込には時間がかかる場合がございます。

★導入後の効果★

メール送信時に、全ての宛先のドメイン数や部署、役職属性が自動で表示されるので宛先確認が迅速に出来て
利便性向上に加え仕事の効率Upで**品質向上**！

不安解消！



メール
利用者

日立ソリューションズグループで導入実績があるメール誤送信対策を**安価**に導入でき、メール誤送信対策の**管理負荷も削減**できて良かった！



システム管理者

4ページから6ページでは日立ソリューショングループで実装している「宛先確認ツール for Outlook[®]」の仕様をご紹介しましたが、お客様向けの仕様変更も設計、構築作業内で承ります。

仕様変更例 (1)

各宛先及び添付ファイルに「確認」チェックボックスを追加し、全てチェック後に「確認完了」ボタンを活性化とする

MY COMPANY



GROUP COMPANY



OTHERS



仕様変更例 (2)

Levelを3から5に変更したい
Levelを3から2に変更したい

	役職	氏名	メールアドレス	部署
TO			xxxxxx@xxxxbank.com	
TO	YYYYY銀行 部長	○△様	yyyy-yyyyyyyyyy@yyyyy-bank.co.jp	○×システム部
CC	YYYYY銀行		zzzz-zzzzzzz@yyyyy-bank.co.jp	
TO	○○製作所 本部長	日○△部	xxxx.xxxxxxxx.xx@xxxxxx.com	○○本部
CC	○○製作所		(連絡先グループ: 定例会出席メンバー)	
TO	□□社 事業部長	□田△雄	xxxx.xxxxxxxx.xx@xxxx-xx.xx.com	□□事業部
TO	□□社 課長	山○□子	xxxx.xxxxx.xx@xxxx-xx.xx.com	△△本部/△△部/○○課
CC	□□社		xxxxxx.xxxxx.xx@xxxx-xx.xx.com	
CC	□□社		(連絡先グループ: UIデザインチーム)	
BCC	□□社 部長代理	△木○二	xxxxxx.xxxxx.xx@xxxx-xx.xx.com	○○本部/□□部/△△部

仕様変更例 (4)

「私は確かに宛先と添付ファイルが正しいことを確認しました」チェックボックスを追加し、チェック後に「確認完了」ボタンを活性化とする

仕様変更例 (3)

添付ファイル数が11ファイル以上の場合「他3Files」表記ではなく、全ての添付ファイル名を表示したい
添付ファイルを自動暗号化したい



- 開発スケジュールPhase4(下期).xlsx
- プレゼン用資料
- 2016-2017年
- 配布資料

All Rights Reserved. Copyright (C) 2020, Hitachi Solutions, Ltd.

宛先確認ツール for Outlook® 動作環境

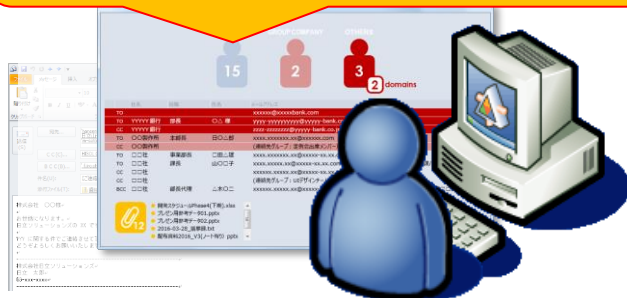
「宛先確認ツール for Outlook®」はOutlookで稼働するツールで、サーバ環境は不要です。

- メールボックス属性参照先に応じて以下2つの種別版がございます
 - MAPI版（Exchange2010、2013、2016、ExchangeOnline）兼SMTP/IMAP版（任意のメールサーバに対応）
 - LDAP版（任意のメールサーバに対応）

- 動作環境 (クライアント) はアドイン版、マクロ版のご提供が可能です
 - メールソフト：Outlook® 2010、2013、2016、Office365
 - アドイン版の場合、Microsoft .NET Framework 4.5 以降、Visual Studio Tools for Office Runtimeが必要
 - **日本語、英語対応**：Outlook日本語版の場合は日本語表記、左記以外の多言語環境では英語表記になります。

- 前提条件
 - アドイン版はOutlook32ビット/64ビットで別々のプログラムを提供します。
 - アドイン版はサイレントインストール、サイレントアンインストールに対応しています。
 - マクロ版はOutlook32ビット/64ビット共通で、パスワード付Outlookマクロ（VBA）で実装します。既にOutlook マクロが存在している場合、既存マクロとの共存環境の実装が必要です。

- Microsoft .NET Framework 4.5 以降（アドイン版）
- Visual Studio Tools for Office Runtime（アドイン版）
- **宛先確認ツール for Outlook®**



Outlook®クライアント

**既存Exchangeサーバ
や既存メールサーバ
に対しては手を加えません**



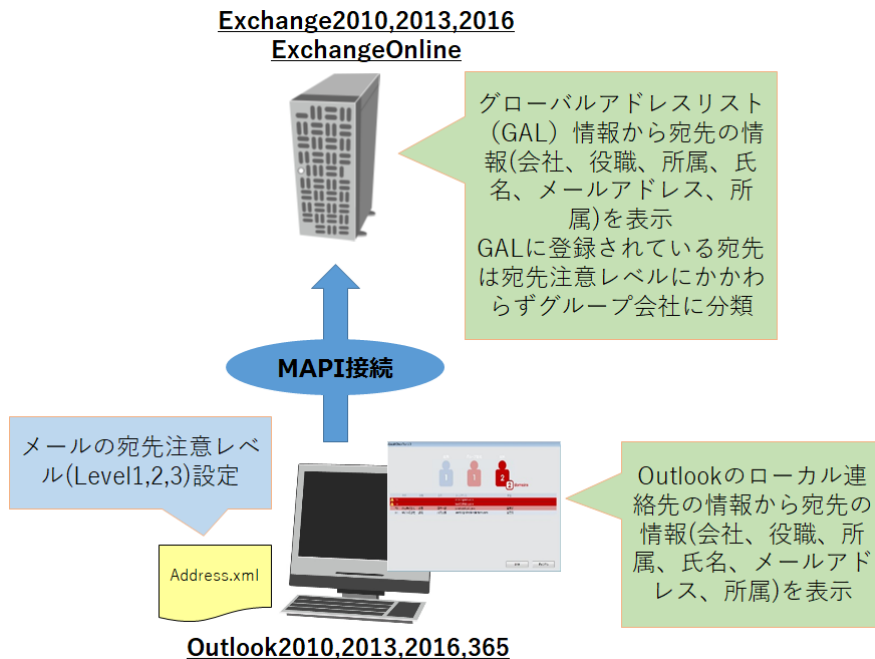
メールサーバ

宛先確認ツール for Outlook® システム構成例 (1/3)

「宛先確認ツール for Outlook®」システム構成例を示します。

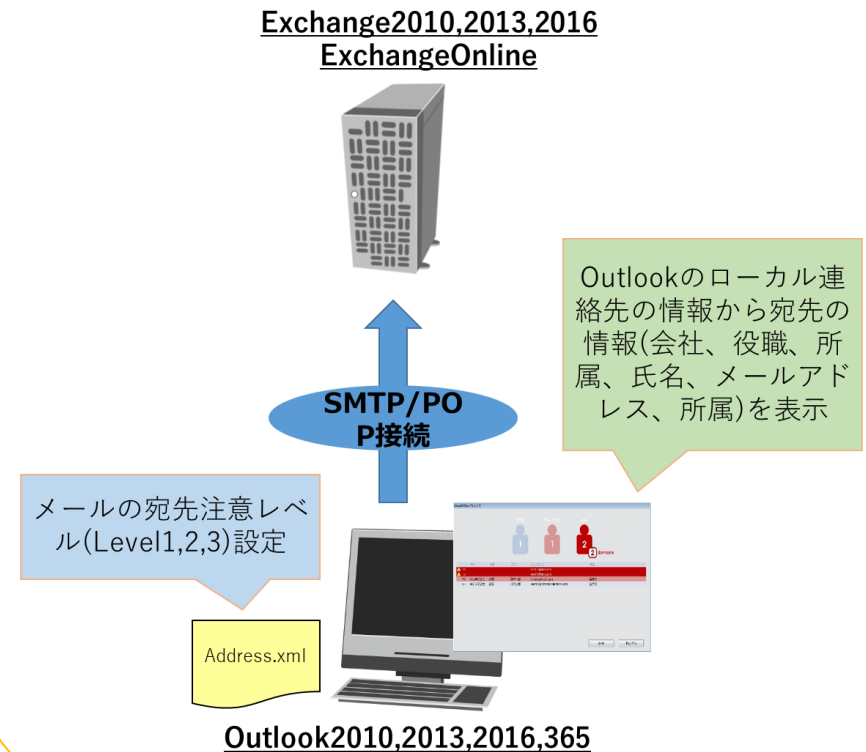
(例1) MAPI兼SMTP/IMAP版をExchange環境で利用

OutlookクライアントがMAPI接続でExchangeOnlineもしくはオンプレミスExchangeサーバを利用する場合は、グローバルアドレスリスト (GAL) およびOutlookのローカル連絡先の情報から宛先の情報(会社、役職、所属、氏名、メールアドレス)を表示します。



(例2) MAPI兼SMTP/IMAP版をExchange環境で利用

OutlookクライアントがSMTP/POP接続でExchangeOnlineもしくはオンプレミスExchangeサーバを利用する場合は、Outlookのローカル連絡先の情報から宛先の情報(会社、役職、所属、氏名、メールアドレス)を表示します。

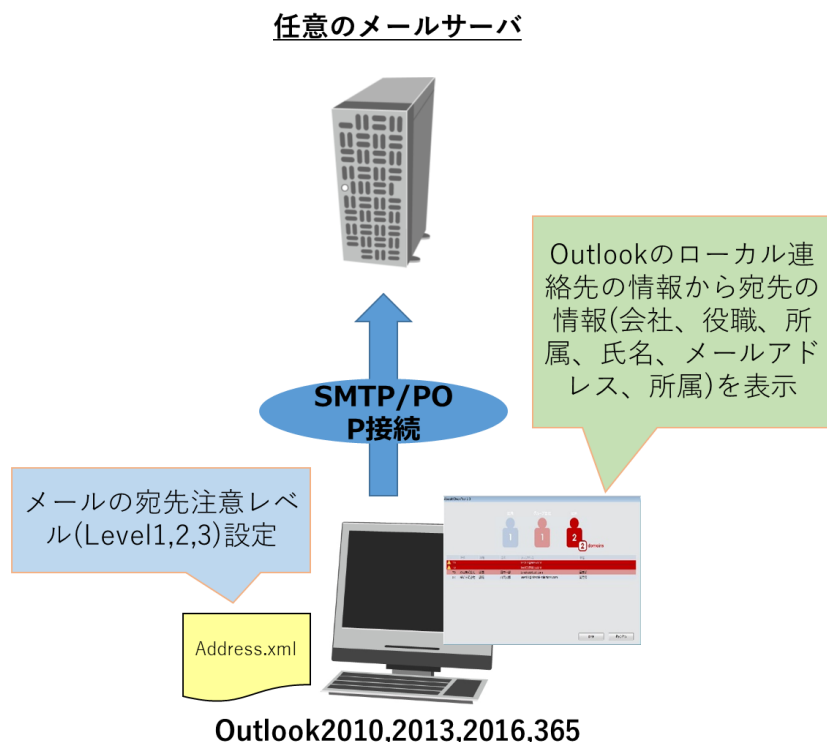


宛先確認ツール for Outlook® システム構成例（2/3）

「宛先確認ツール for Outlook®」システム構成例を示します。

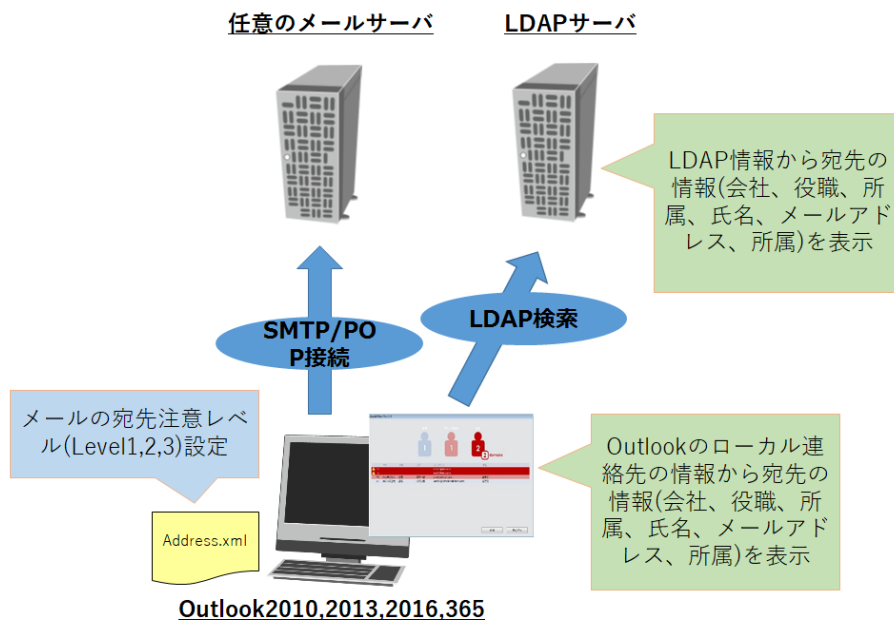
（例3）MAPI兼SMTP/IMAP版を任意のメール環境で利用

OutlookクライアントがSMTP/POP/IMAP接続で任意のメール環境で利用する場合は、Outlookのローカル連絡先の情報から宛先の情報(会社、役職、所属、氏名、メールアドレス)を表示します。



（例4）LDAP版を任意のメール環境で利用

OutlookクライアントがSMTP/POP/IMAP接続で任意のメール環境で利用し、LDAPサーバおよびOutlookのローカル連絡先の情報から宛先の情報(会社、役職、所属、氏名、メールアドレス)を表示します。

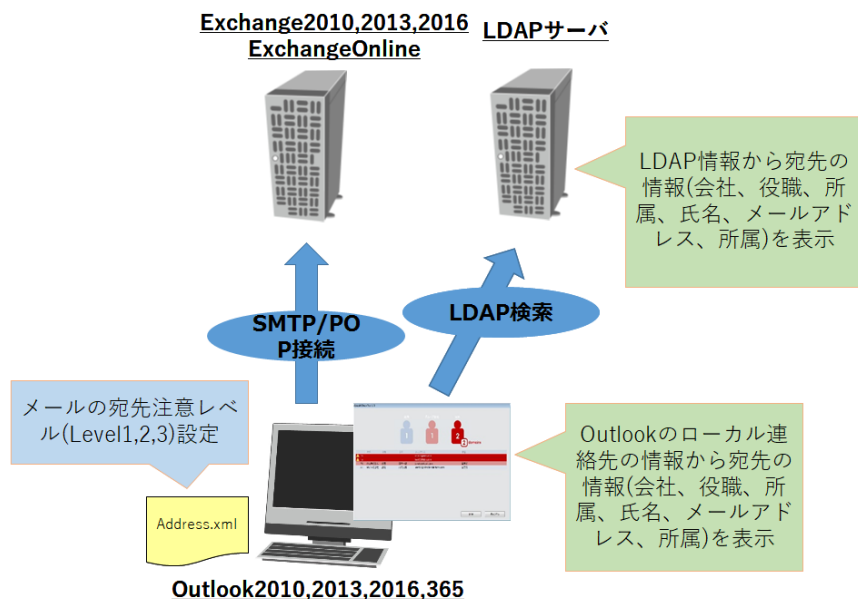


宛先確認ツール for Outlook® システム構成例（3/3）

「宛先確認ツール for Outlook®」システム構成例を示します。

（例5）LDAP版をExchange環境で利用

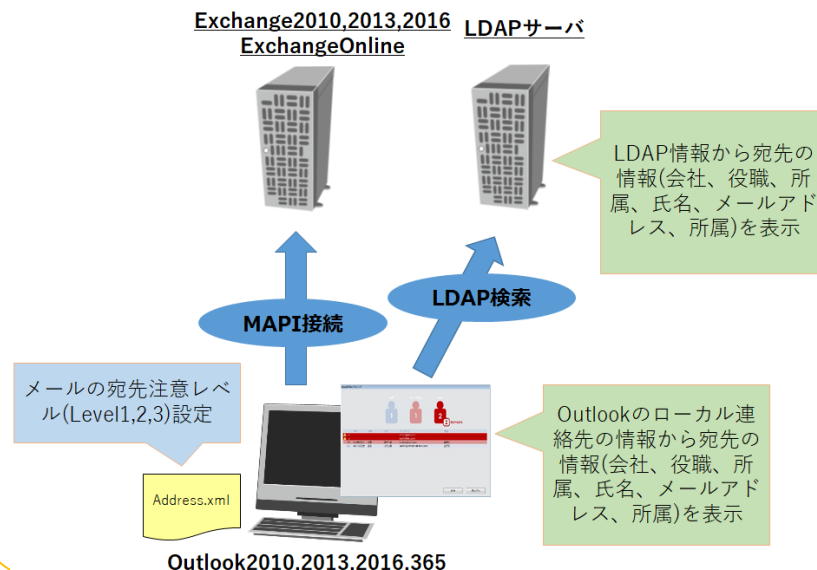
OutlookクライアントがSMTP/POP接続でExchangeOnlineもしくはオンプレミスExchangeサーバを利用する場合でも、LDAP版を利用することで、LDAPサーバおよびOutlookのローカル連絡先の情報から宛先の情報(会社、役職、所属、氏名、メールアドレス)を表示します。



（例6）LDAP版をExchange環境で利用

OutlookクライアントがMAPI接続でExchangeOnlineもしくはオンプレミスExchangeサーバを利用する場合でも、LDAP版を利用することで、LDAPサーバおよびOutlookのローカル連絡先の情報から宛先の情報(会社、役職、所属、氏名、メールアドレス)を表示します。

メールサーバとしてExchangeOnline利用時ネットワーク環境によってはグローバルアドレスリスト（GAL）の宛先情報取得及び宛先確認ツール画面の表示に時間を要する場合、LDAP版を利用により表示速度の改善が可能です。



宛先確認ツール for Outlook® マクロ版とアドイン版の違い

マクロ版とアドイン版の相違点を以下に示します。
Outlookクライアントに空き容量が不足、またはOutlook2007以下をご利用のお客様にはマクロ版の提供をお勧めいたします。

	マクロ版 宛先確認ツール for Outlook®	アドイン版 宛先確認ツール for Outlook®
ツール種別	Outlook®マクロツール Outlookのメニューバー「開発」-「マクロ」に実装。複雑なパスワードを付与することにより、利用者がマクロ有効/無効設定、参照、変更及び修正不可とする。	Outlook®アドインツール Outlookのメニューバー「ファイル」-「オプション」-「アドイン」でユーザはツール名のみ参照、有効/無効設定のみが可能であり、プログラムコードの参照、変更は不可。
前提ソフトウェア	Officeのメディアで標準提供される「Visual Basic for Applications」コンポーネント	Microsoft .NET Framework 4.5 以降、Visual Studio Tools for Office Runtimeが必要
Outlook®への導入作業	マクロツールは利用者毎の「%APPDATA%\Microsoft\Outlook」フォルダにファイルをコピー	Outlook®クライアント側にEXE形式のOutlook®アドインインストーラープログラムを配布しインストール、サイレントインストール可能。
利用者側での有効、無効設定禁止	マクロツールは利用者毎の「%APPDATA%\Microsoft\Outlook」フォルダにOTMファイルで保存される為、利用者側で削除が可能。	ActiveDirectoryのGPO機能もしくは、クライアントのレジストリ設定にてアドインツールの有効/無効化をシステム管理者側で制御が可能。
ビット数	マクロでのご提供の為、Outlook®32ビット/64ビットに依存しない	Outlook®32ビット/64ビットそれぞれのバージョンのアドインツールの用意が必要
制限事項	既にOutlook®マクロが存在している場合、既存マクロは共存設定が別途必要 Outlook®導入時にマクロセキュリティ画面が表示される場合があり、必要に応じ証明書の導入が必要 クライアントのCドライブの容量に影響がない。 Outlook2007でも動作可能	Cドライブの空き容量がMicrosoft .NET Framework 4.5.2のシステム要件には4.5GB以上のディスク容量が必要。

宛先確認ツール for Outlook® 導入実績と優位点

「宛先確認ツール for Outlook®」の導入実績と優位点を以下に示します。

○主な導入実績

#	業種	メールサーバ環境	接続プロトコル	利用者数	導入/運用開始時期
1	ソフトウェア業 (日立ソリューションズグループ)	Exchange2010、 Office365 Outlook2010,2013	MAPI	約13000名	2016年3月
2	製造業	POPメール Outlook2010,2013 ,2016	POP,IMAP	約1400名	2016年7月
3	製造業	Gmail、Outlook日本語版、多言語版	POP,IMAP	約500名海外 含めて利用	2017年12月
4	製造業	Outlook日本語版、 Office365	POP,MAPI	約30000名	2020年2月～ 展開中

○優位点

- 導入実績
 - ★日立ソリューションズグループ 6社：約13,000名での導入及び稼働実績
- メール送信時の確認方式の強化
 - ★宛先確認画面は日立ソリューションズで意匠登録の自社開発製品。
 - ★企業に重大な損失をもたらすメール誤送信事故の要因が宛先間違いや不要なファイル添付が起因であることに対する対処。
 - ★大きなアイコンの表示や、色や宛先件数表示などの視覚的な注意喚起
→送信前に送信者自身が誤送信のリスクを認識した事故防止効果を向上します。
- 多言語環境での利用
 - ★Outlook日本語版のみならず多言語環境では英語表記となり、**ワールドワイドで利用可能。**

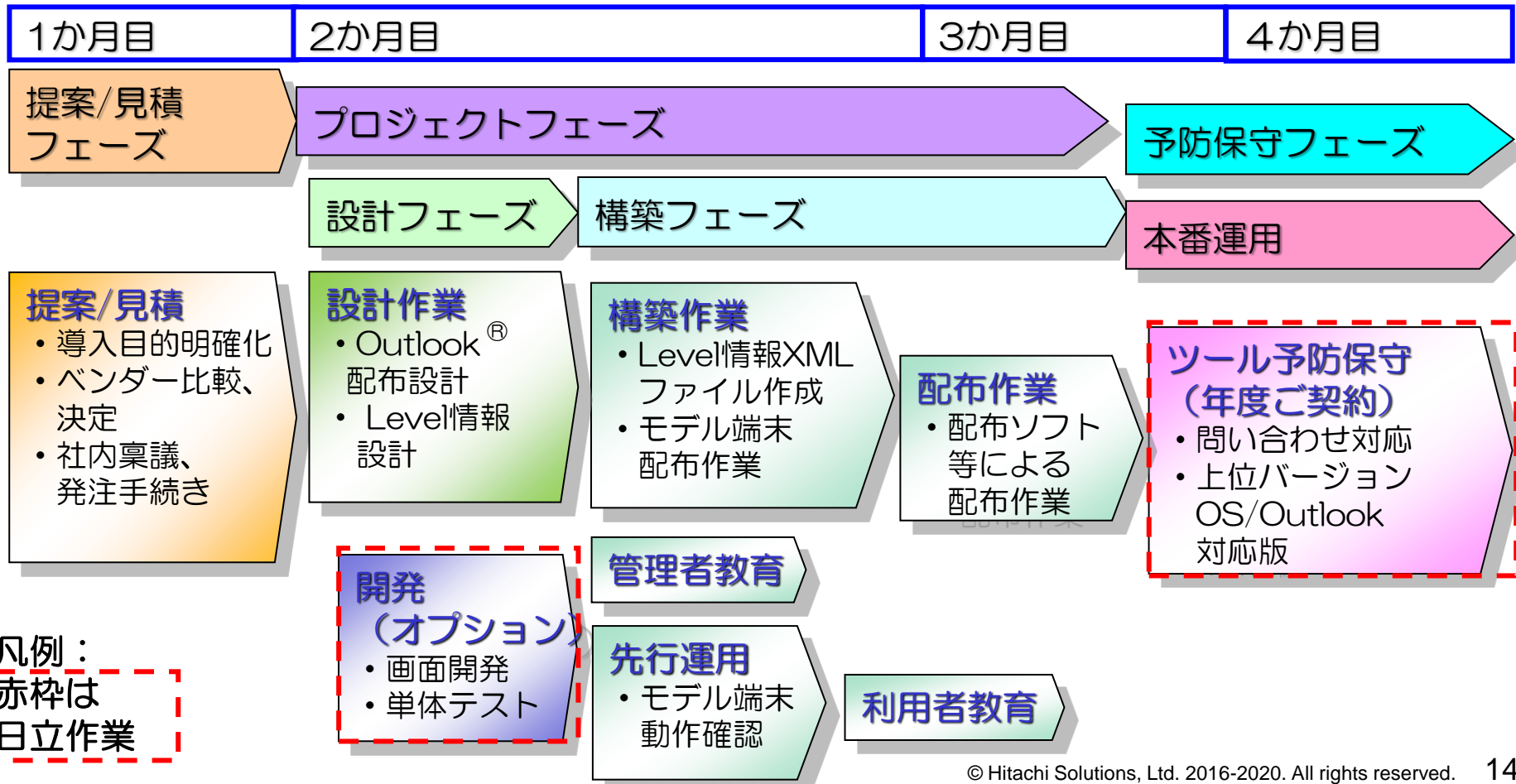
宛先確認ツール for Outlook® 導入作業

「宛先確認ツール for Outlook®」導入は、初期設定作業として注意レベル判定に使用するドメイン名をaddress.xmlファイルに設定頂くだけで**お客様側で最短1日で実装可能**です。
 メールサーバ/LDAPサーバとの連携や、Outlookへの配布設計が必要な場合、設計、モデル端末への配布作業を実施し1か月以内に利用が可能です。

★PJ開始

★本番配信

★ご検収



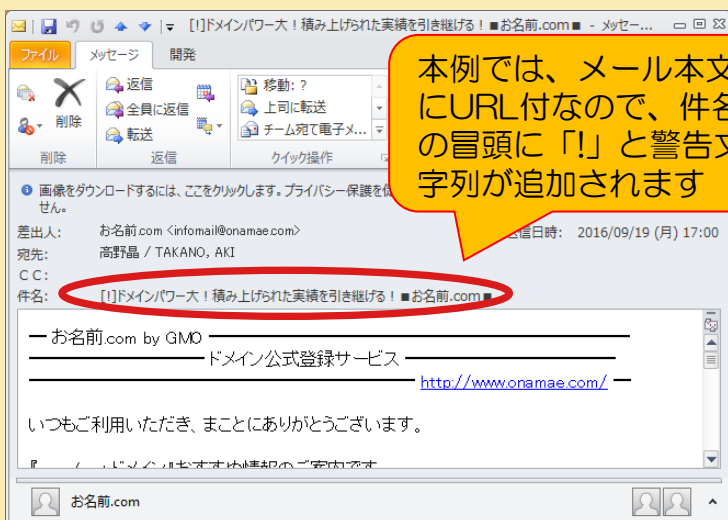
凡例：
赤枠は
日立作業

日立グループでのメールコンプライアンス対応

日立グループでのメールコンプライアンス対応の運用事例を以下に示します。

受信時の対応：件名の冒頭に注意喚起マーク付与
インターネット環境から社内メールアドレスへ送付されるメールのうち、標的型攻撃メールの可能性があるメールには、件名に3種類のマークを付与しメール利用者に注意喚起を促します。

- ①「!」：添付ファイル付もしくは本文にURL記載のメール
- ②「!!」：①の条件に加え、なりすましが多いドメインからの受信メール
(@yahoo.com, @yahoo.co.jp, @gmail.com)
- ③「h!」：①の条件に加え、日立グループからの受信メール



送信時の対応：ツールによる送信アドレス目視確認

メール送信時に宛先確認を行う別画面「宛先チェックツール for Outlook[®]」を表示し、メールの宛先のアドレスを予め企業ドメイン毎に設定した危険度レベルに振り分け、人型マークの中に其々の件数を表示します。
3種類の危険度レベルを以下に示します。

- ①レベル1：宛先が日立ソリューションズグループ6社
- ②レベル2：宛先が日立製作所グループ
Outlook連絡先に登録された宛先
- ③レベル3：宛先が①②以外

本ツール導入により、送付先の宛先が間違っていないかに加え、社内宛てメールでも相手の部署、役職が即座に確認ができるので社内宛てのメール誤送信防止にも役立ちます



Outlookクライアント

宛先確認ツール for Outlook® ライセンス及び保守費用

「宛先確認ツール for Outlook®」の売切ライセンスおよび保守費用、年間サブスクリプションライセンスはオープン価格となります。下記は、メールユーザ数ごとの参考価格となります。目安としてご覧ください。

○売切ライセンス及び保守費用

#	Outlookユーザ数	ライセンス費用 参考価格（税抜）	年間保守費用 参考価格（税抜）
1	250	975,000円	146,250円
2	500	1,550,000円	232,500円
3	1,000	2,600,000円	390,000円
4	2,500	3,250,000円	487,500円
5	10,000	7,800,000円	1,170,000円
6	50,000	39,000,000円	5,850,000円

○年間サブスクリプションライセンス（保守費用込）

#	Outlookユーザ数	年間サブスクリプションライセンス費用 参考価格（税抜）
1	250	155,000円
2	500	310,000円
3	1,000	520,000円
4	2,500	650,000円
5	10,000	1,560,000円
6	50,000	7,800,000円

ご参考：Exchange標準機能を利用した宛先確認

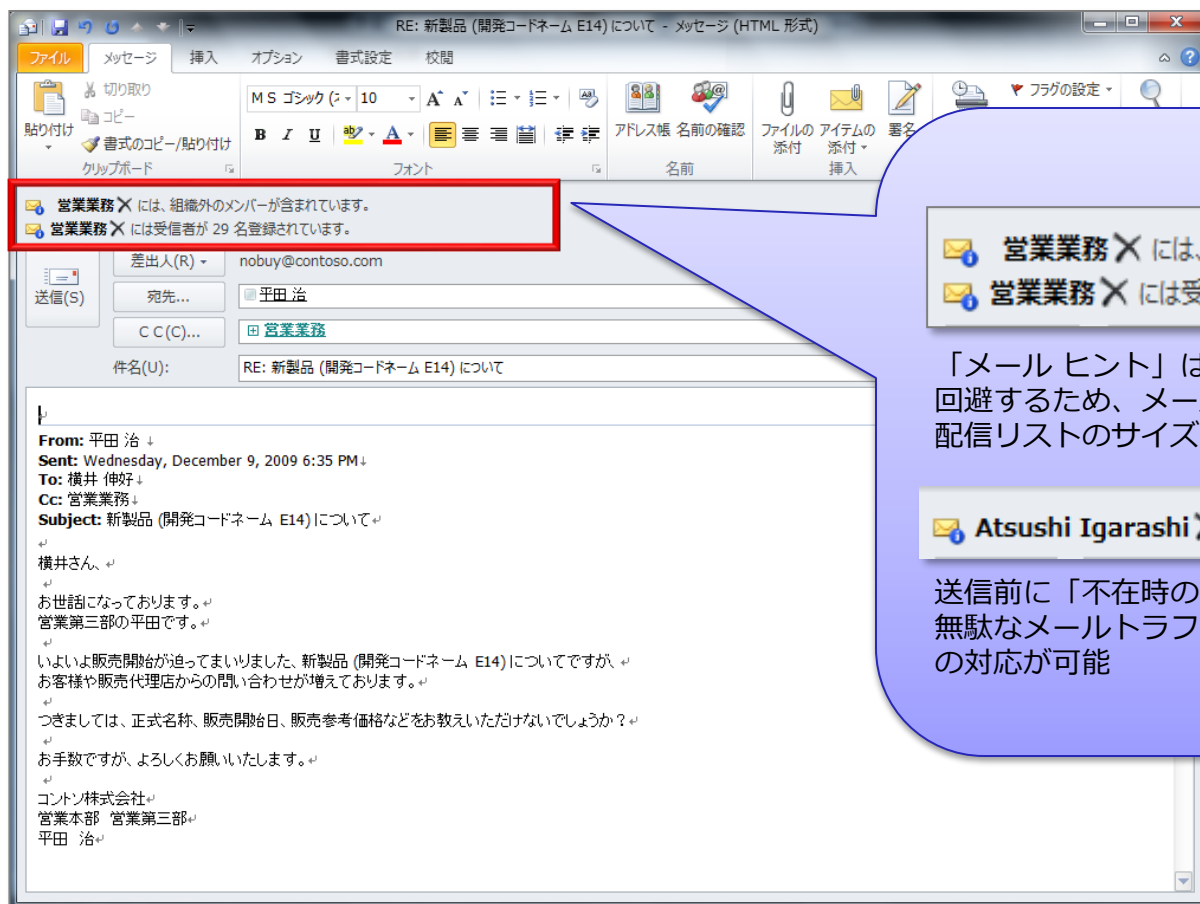
ご参考：メール送信時の宛先確認方式案のご提案

Exchange[®]をメールサーバとしてご利用頂いているお客様において、メール誤送信を防止する為にメール送信時に宛先確認を行う方式案として、「Outlook[®]宛先チェックツール」で実装方式及びExchange[®]標準機能での実装の概要とメリットデメリットを以下に示します。

	(1)Exchange [®] 標準機能	(2)Outlook [®] 宛先チェックツール
概要	Exchange [®] 2010標準機能であるメールヒント、トランスポートルール機能を利用した宛先確認	<u>Outlook[®]アドイン/マクロ</u> によりメール送信時に即座にメールを送信せずTO,CC,BCCの宛先を分類して一覧表示
必要リソース	- (Exchange [®] 標準機能を利用)	日立ソリューションズ提供のOutlook [®] アドイン/マクロツール
導入作業	Exchange [®] 組織側でメールヒント、トランスポートルール設定を追加	<ul style="list-style-type: none">• Outlook[®]側にOutlook[®]アドイン/マクロインストールプログラムを配布しインストール• Level1,2,3情報を保持するXMLファイルを公開する外部サーバ• 部署、役職等、Exchange[®]属性の設定
メリット	Exchange [®] 標準機能利用のため、安価で迅速な導入が可能	<ul style="list-style-type: none">• AD,Exchange[®]メールボックス属性を参照し、社内、グループ会社、他社ときめ細かな分類チェックが可能。• ツールを拡張し、例として添付ファイル自動暗号機能等を追加することが可能
デメリット	宛先確認警告が「組織内」「組織外」の区別でしか出せない	Outlook [®] 利用者数に応じたライセンス費用及び、初期導入作業が必要。 Outlook [®] 32/64ビット夫々バージョンのツールが必要（アドイン版）

メール送信時に警告、うっかりミスを防止：メールヒント

- 宛先メールアドレスに応じた警告、情報を表示
 - 誤送信防止、無駄なメールトラフィックの削減
 - 管理者による設定
 - 既定のルールから選択 - 受信者数、外部送信、不在表示など
 - カスタマイズ - 宛先に応じて指定したメッセージを表示可能



送信時に警告メッセージを表示。

営業業務 X には、組織外のメンバーが含まれています。
営業業務 X には受信者が 29 名登録されています。

「メール ヒント」は、うっかりミスによる情報漏えいのリスクを回避するため、メールの宛先に社外の人が含まれている場合や、配信リストのサイズが異常に大きい場合などに警告を促す機能

Atsushi Igarashi X : 自動応答: " - 申し訳ありませんが年末休暇として

送信前に「不在時の自動応答メッセージ」が表示されるため、無駄なメールトラフィックの削減や、他の人へ連絡するなど
の対応が可能

メール ヒント	説明
Invalid Internal Recipient	宛先受信者が、Active Directory に 登録されていないユーザー（退職者など）であることを知らせてくれる
Mailbox Full	宛先受信者のメール ボックスが、いっぱいになっているため、送信できないことを知らせてくれる
Automatic Replies	宛先受信者が、現在不在中であることを知らせてくれる
Restricted Recipient	宛先受信者へのメッセージ送信が、禁止されていることを知らせてくれる
External Recipients	宛先受信者に、組織外のユーザーが含まれていることを知らせてくれる
Large Audience	配布グループのメンバーが、指定数より多く含まれていることを知らせてくれる（既定値：25）
Moderated Recipient	宛先受信者へのメッセージ送信、承認フローが動作することを知らせてくれる
Oversize Message	メッセージ サイズが上限値を超えていることを知らせてくれる
カスタマイズ	メールボックスや配布グループに自由に設定できる。 例) 配布グループの使用方法を間違えないように、 配布グループのメンバー構成と用途を表示する

- 送受信されるメールに対して内部統制が可能
 - 社内ルールの適用
 - 社外向けのメールには上司を CC or BCC に追加
 - メーリングリスト宛のメールには、件名の先頭に文字列（テーマ名など）を追加
 - 追記
 - 免責事項の追記

条件

もし、メッセージが...
送信者が **「正社員グループ」** のメンバーで、
かつ受信者が **「外部の組織」** で、
かつ本文に **「合併」** の文字列が含まれていたら

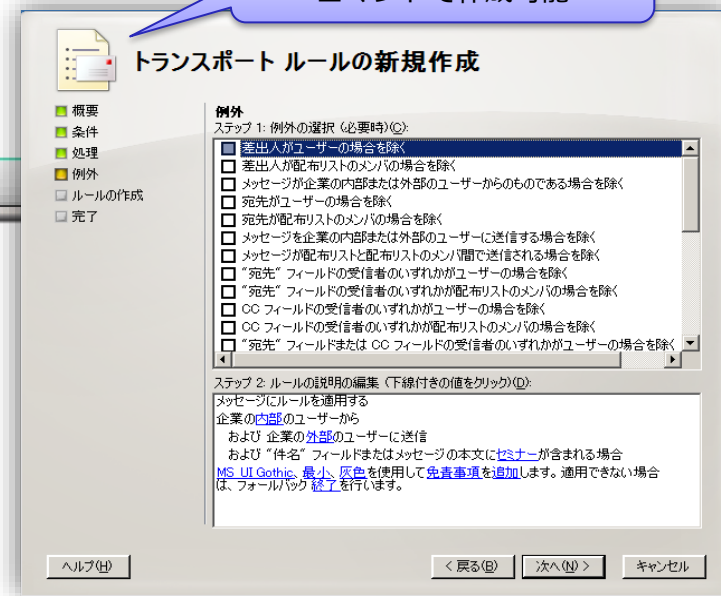
処理

以下の処理を行う...
次の宛先に転送する: kansa@contoso.com

例外

以下の場合を除く...
送信者が **「役員グループ」** のメンバーの場合

GUI (ウィザード) もしくは
コマンドで作成可能



- 特定のメール送信における承認依頼 (モデレーション)
 - 承認/却下の判断がされるまでメール送信はシステムにより保留
 - トランスポートルールを使用して管理者による条件設定
 - 外部送信、キーワード、宛先など
 - 承認者として特定のユーザーや Active Directory の上司を指定可能

返信 全員へ返信 転送

承認します。 却下します。

要求された承認:請求書について

返信してください。

Microsoft Exchange Approval Assistant は 加藤 昌 の代理

送信日時: 2009年4月2日 16:32

宛先: 鈴木 孝

添付ファイル: 請求書について

意思決定が要求します。

加藤 昌 は 添付された電子メール メッセージへの配信を承認する依頼します。
阿部 聡

プレビュー、メッセージのプレビューは以下です。完全なメッセージを表示するには、添付ファイルを開いてください。

From: 加藤 昌
To: 阿部 聡
Subject: 請求書について

MS商事株式会社 阿部様

お世話になっております。
先日送付させていただきました請求書ですが、
お手元に届きましたでしょうか？
お忙しいところお手数ですが、ご一報いただけると幸いです。
よろしくお願いたします。

加藤

トランスポートルールを編集します。

- 概要
- 条件
- アクション
- 例外
- ルールを更新します。
- 完了

アクション

手順 1: よりアクションを選択します。

- “宛先” フィールドのアドレスに受信者を追加する
- メッセージをアドレスにコピーする
- メッセージをアドレスに BCC (ブラインド カーボン コピー) で送信する
- 送信者のマネージャを特定の受信者の種類として追加する
- モデレーターのアドレスにメッセージを転送します。
- 送信者のモデレーターのマネージャにメッセージを転送する
- メッセージをアドレスにリダイレクトする
- 拡張状態コードを付けて送信者にバウンス メッセージを送信する
- だれにも通知せずにメッセージを削除する

手順 2: 下線をクリックして仕訳ルールの説明を編集します。

メッセージに規則を適用します。
宛先が `muramatsu@contoso.com` の場合
モデレーターの `managers@contoso.com` にメッセージを転送します。

戻る 次回 キャンセルします。

HITACHI
Inspire the Next